

# 国語科(書写)学習指導案

学級 3年C組(男子15名, 女子16名, 合計31名)  
授業者 小野純治

- 1 単元名 学習したことを生かしてあこがれの人物書を書こう  
教材名 三年間のまとめ、未来に向かって(光村図書『中学書写 一・二・三年』)

## 2 単元について

### (1) 教材観

本単元では、中学校学習指導要領[第3学年]の[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項]における書写に関する事項「ア 身の回りの多様な文字に関心をもち、効果的に文字を書くこと」、関連して書くことの指導事項「イ 論理の展開を工夫し、資料を適切に引用するなどして、説得力のある文章を書くこと」について、指導する。

本教材は、三年間の書写の学習のまとめとして、身に付いた知識を振り返り、自ら選んだ言葉を文字の伝達性や表現性などを考えながら、目的や必要に応じて書くことができる教材である。また、行書の特徴である点画の連続と筆順の変化、字形を整えることを意識して書くことも扱うことができる教材である。

### (2) 生徒観

生徒は、話を素直に聞き、指示にも的確に応えることができる。その反面、話し合い活動や発言の際は消極的になってしまう生徒も多数いる。書写に関しては、整った字を書こうと毛筆の学習に意欲的に取り組み、満足するまで繰り返し練習を行う生徒も多い。一方で、筆圧が弱かったり読み取れない字を書いたりする生徒もいる。

生徒は、楷書の学習の後行書の学習に入り、主に北上・和賀地区書写書道コンクール作品への取組を通して文字の外形、丸みのある字形、連続、省略、筆順の変化などについて理解することができた。しかし、日常の硬筆の字形の乱れや、記入欄に対する文字の大きさや字間など、目的や必要に応じた文字の書き方に関する意識はいまだ低い。

### (3) 指導観

本単元では、これまで学習した行書の筆遣い、ひらがなの筆遣い、行書の点画の連続と筆順の変化、文字の大きさ、字形の特徴などを生かし、効果的に文字を書けるようにさせていきたい。また、グループでの評価活動を行い、他者の考えを取り入れ効果的に伝え合うには、相手を意識して文章を書く必要があることにも気付かせたい。

そこで、本単元では、「尊敬する人物を表す漢字を選び、行書で書き、その人物を批評する文を書き添える」という言語活動を設定する。これによって、本単元でねらう書写に関する事項ア、書くことの指導事項イの実現を図ることができる。

これらの指導を通し、文字の伝達性や表現性などを考え、目的や必要に応じて書く力を養いたいと考える。そして、文字を手書きにすることの意義に気づき、主体的な文字の使い手となるひとつのきっかけを持たせていく。

### 3 単元の目標

- (1) これまで学習したことを生かして、主体的に課題に取り組もうとしている。  
【関心・意欲・態度】
- (2) 漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書くことができる。  
【知識・理解・技能】
- (3) 漢字の行書の基礎的な書き方を理解して書くことができる。  
【知識・理解・技能】
- (4) 判断や評価の理由や根拠となる適切な資料を引用して、説得力のある批評の文章を書く。  
【書くこと】

### 4 単元の指導計画と評価規準（5時間扱い 本時4／5）

時	学習内容	書く活動	評価規準
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の見通しを持つ。</li> <li>・「学習の窓」を一覧し、3年間で学習したことを振り返る。</li> <li>・設問①～⑤に取り組む。</li> <li>・教科書 P56 の欄外を見て解答を確かめ、点画の省略や筆順の変化など、設問に関連のある知識を確認する。</li> <li>・単元の課題を確認し、自分で書こうとする文字を選ぶ。</li> </ul>		<p>（関・意・態）単元の見通しを持ち、テーマに即して用意した資料を用いながら、自分で書こうとする文字を選ぼうとしている。</p> <p>（知・理・技）漢字の行書の基礎的な書き方を理解して書いている。</p>
2 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の選んだ文字について、筆脈や字形を分析する。</li> <li>・行書「創造する喜び」について、自分の作品を批評する文章を書き、次時につなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の作品を、理由や根拠を示しながら批評する文を書く。</li> </ul>	<p>（関・意・態）作品を、自分の立場や意見を明確にして批評する文章を書こうとしている。</p> <p>（知・理・技）漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して作品を書いている。</p> <p>（書）判断や評価の理由や根拠となる適切な資料を引用して、説得力のある批評の文章を書いている。</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題を意識して作品を書き、効果的な文字の書き方を理解する。</li> <li>・自分の立場や伝えたい事実などを明確にして、批評する文を書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の作品を、理由や根拠を示しながら批評する文を書く。</li> </ul>	<p>（関・意・態）作品を、自分の立場や意見を明確にして批評する文章を書こうとしている。</p> <p>（知・理・技）漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して作品を書いている。</p> <p>（書）判断や評価の理由や根拠となる適切な資料を引用して、説得力のある批評の文章を書いている。</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの作品を評価し、これまでの授業のまとめ、感想を書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の仕事について、自分の意見を書く。</li> <li>・論理の展開を工夫し、資料を適</li> </ul>	<p>（関・意・態）作品を、自分の立場や意見を明確にして批評する文章を書こうとしている。</p> <p>（知・理・技）学年別漢字配当表に示されている漢字を適切に使って文章を書</p>

		切に引用するなどして、説得力のある批評の文章を書く。	いている。 (書) 判断や評価の理由や根拠となる適切な資料を引用して、説得力のある批評の文章を書いている。
--	--	----------------------------	--

## 5 本時の指導

### (1) 目標

漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して作品を書くことができる。

(知識・理解・技能)

判断や評価の理由や根拠となる適切な資料を引用して、説得力のある批評の文章を書くことができる。(書くこと)

### (2) 具体的評価規準

評価の観点	評価規準	支援を要する生徒への手立て
関心・意欲・態度	あこがれの人物書について、自分の立場や意見を明確にして批評する文章を書こうとしている。	自分の憧れる人物を知ったきっかけはどのようなものだったかを考えさせ、どんなところが魅力だったのかを引き出させる。
知識・理解・技能	漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して作品を書いている。	必要に応じて学習の窓を示しながら、行書の特徴を確認させる。
書くこと	判断や評価の理由や根拠となる適切な資料を引用しながら、説得力のある批評の文章を書いている。	集めた資料を確認させ、自分の考えの根拠となる資料について、ポイントの吟味の仕方を助言する。

### (3) 本時の展開

段階	学習内容	生徒の学習活動	留意点 (●評価の場面と方法) (□書く活動)
導入 5分	1 本時の課題を確認する。 2 本時の学習の流れを確認する。	・自分で選んだ漢字について分析を基にして書き、あこがれの人物書に対する批評文を、調べた資料を基にして書くことを知る。	・分析や資料など、根拠を基にして書くことを周知させる。
	分析したことを生かして漢字を書き、批評する文を添える。		

展開 40分	3 分析した内容を振り返る。	・点の位置、線の長さや太さ、角度、空間など、分析した漢字の詳細を確認する。	・必要に応じ、加筆、見直しもさせる。
	4 分析したことを基にして、行書で漢字を書く。	・分析した内容をふまえながら、漢字を半紙5枚に書く。	●【知識・理解・技能】 漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して漢字を書いている。 ・書き終わったことを確認し、片付けの指示を出す。
	5 あこがれの人物に対する批評文を書く。	・あこがれの人物について、予め調べておいた資料を用い、根拠を明らかにした批評文を書く。	□主観で評価せず、資料を根拠に書くことを留意させる。 ●【関心・意欲・態度】 批評文について、自分の立場や意見を明確にして批評する文章を書こうとしている。 ●【書くこと】 批評文の根拠となる資料を引用しながら、説得力のある批評の文章を書いている。
まとめ 5分	6 本時のまとめ	・自分で書いた漢字や批評文について、自己評価を行う。また、授業を通して気づいたことを書く。	□評価シートにまとめを書く。 ・数名の生徒に発表させる。

(4) 板書計画

<p>単元目標</p> <p>学習したことを生かして、あこがれの人物書を書く</p>	<p>学習課題</p> <p>分析したことを生かして漢字を書き、批評する文を添える</p>	<p>・学習の流れ</p> <p>一 分析した内容を振り返る（五分）</p> <p>二 「一」をもとに、行書で漢字を書く（五枚、一五分）</p> <p>※片付け（目標三分）</p> <p>三 資料を用いて、批評文を書く（一五分）</p>	<p>●自己評価</p> <p>一 分析を生かして漢字を書けたか</p> <p>二 批評文は説得力のあるものか</p>
--	---	--	---